

## 県立木更津高等学校

### 目 標

- ・ 生徒が日本国内における多様性を理解し、自分達ができることを考える。
- ・ 生徒の欧米や先進諸国以外への興味関心を高める。
- ・ 生徒の知識基盤社会に対応できる思考力を養う。
- ・ 生徒が進路選択において留学や海外への進学を積極的に考えうる情報を得る。

### 留学生等との交流会の開催

- (1) 日 時：平成30年11月19日(月) 12時15分から15時
- (2) 会 場：本校
- (3) 留学生等：千葉大学の留学生2名、JICA ボランティア2名
- (4) 参 加 者：第1学年生徒325名、教員17名、 計 342名
- (5) 内 容：  
在住外国人の講師には、留学の経緯、学問内容、留学で学んだこと、困ったこと、今後の進路など多岐に渡り話をしていただいた。また JICA ボランティアの方には、派遣先での経験やボランティアに応募した経緯、その後のキャリア選択などについて話していただいた。個別相談会も設け、多くの生徒が直接講師の方と交流をすることができた。
- (6) 事前学習：講師のプロフィールなどを事前に示し、質問事項などを事前に考えた。
- (7) 事後指導：講演の内容を振り返り、感想文を完成させた。
- (8) 参加者の感想等
  - ・ 国際交流は一步踏み出せば、自分でもできることであると認識できた。また、世界の人々とコミュニケーションをとるには言語だけではなく文化的な背景についても理解が必要であると感じた。

### 海外理解促進のための講演会

- (1) 日 時：平成31年1月31日(木) 14時50分から15時50分
- (2) 会 場：本校
- (3) 講 師：氏名 天沼 耕平 氏  
所属 国連 UNHCR 協会 (国連高等弁務官事務所・日本委員会)  
経歴 東京学芸大学教育学部卒業後、淑徳中学高等学校において3年間社会科教員として勤務。その後、児童養護施設の指導員や開発系 NGO の職員などの経験に加え、熊本県の農業法人において農業にも携わる。2012年に国連 UNHCR 協会に入職し、「国連難民支援プロジェクト」関東エリアマネージャーを経て、現在は団体・学校担当をしている。
- (4) 参 加 者：第2学年生徒295名、教員14名、 計 309名

(5) 内 容：

「難民」とはどのような人たちのことを指すのか。そして、難民となってしまった人々が現在どのような状況におかれているのかを、シリア難民を例にお話をいただいた。そして、ただ難民の現状を知るというだけでなく、その上で、高校生である生徒たちにできることはどのようなことなのかをお話いただいた。さらに、講師本人のファンドレイザーという肩書についてのお話から、生徒達がこの先、国際社会でどのように活躍していけるのか、その可能性を考えさせる良いきっかけとなる貴重な講演であった。

(6) 事前学習：シリア難民に関する動画を閲覧し、感想文を書いたり、講師への質問を考えたりした。

(7) 事後指導：講演の内容を振り返り、感想文を完成させた。

(8) 参加者の感想等：

- ・これまで「難民」と聞いても、どこか遠い世界の国の自分たちとは関係のない人たちのことなのだと思っていたが、私たち一人一人が本気で考えていかなければならない問題なのだと実感した。
- ・自分のことだけでなく、将来どうやって国際貢献していけば良いのか考えるきっかけとなるお話だった。
- ・私たちにできることは難民のことを「知る」、そしてそれを「広める」、その先に寄付などの「参加する」があるのだと学んだ。

## 事業の成果

- ・ 留学や国際活動に対して前向きに考えられる生徒が増加した。
- ・ 自国のことだけでなく、様々な状況にある他の国の人々にも関心を持つ生徒が増えた。
- ・ グローバル化に関する理解がより明確になった。
- ・ グローバル社会に必要な資質・能力に関する理解がより明確になった。

## 今後考えられる新たな取組

- ・ 多様な留学経験や学習経験、社会体験をされた講師を集め、個々の生徒の希望にある程度合致できるような交流会を設ける。
- ・ 総合学習だけでなく、日常の授業などに関連付けることで、事前学習の充実を図る。